新工場 生産能力2倍

尾道で26年秋稼働へ

半導体装置ジェーイーエル

半導体製造装置メーカーのジェーイーエル（福山市）は、生産能力を2倍に増強する。尾道市で同社最大となる新工場の建設に着手。生成人工知能（AI）の活用拡大やデータセンター整備などを背景に今後も成長が見込まれる半導体業界で、需要の取り込みを図る。（筒井晴信）

尾道市御調町の国道486号沿いに、約2万9800平方㍍の用地を取得。建築面積1万1400平方㍍の鉄骨3階建ての工場を建設する。電力消費を抑えたクリーンルームや倉庫を設け、無人搬送車などにより省力化を進める。

新たに150人ほどを雇用し、2026年10月の稼働開始を予定する。用地取得も含めた投資額は約56億円。

同社は、半導体基板や液晶用ガラス基板を次の工程に運ぶアーム状のロボットを生産。国内外の半導体装置メーカーなどに出荷している。現在は福山市内などに3工場を構え、月に約600台を生産できる。ただ、半導体業界で設備投資が活発化する中で、生産能力やスペースが限界に近づいていたという。

新工場が稼働すれば、生産能力は月約1200台に倍増する。昨年、部品を生産する高知県香美市の工場を増床しており、両工場で規格品の製品を生産。同社が特徴とする小ロットの特注品は、福山市内の2工場で生産する方針。

20年5月期に43億円だった売上高は、23年5月期に145億円に伸びている。同社は「安定して製品を供給するため、先行して生産能力を確保したい」としている。

ジェーイーエルの新工場予定地

ジェーイーエルが生産する半導体基板の搬送ロボット

ジェーイーエルが尾道市に整備する新工場の完成予想図